


9 新宿御苑 小石川工高



江戸時代は信州高遠藩主内藤家の江戸下屋敷であり、玉川上水の水を利用した日本庭園のある景勝地であった。明治5年(1872)に官営農業試験場となり、同12年には宮内庁に移管され新宿植物御苑に、その後フランス人造園家の設計によって明治39年に現在とほぼ同じ形の新宿御苑が完成している。昭和24年(1949)に国民公園となり一般公開された。

8 四谷大木戸跡碑



江戸への西の出入り口である。石垣の間に間口二間半の大木戸があり、番所が設けられて通行手形や米などの検問が行われた。門は四つ(午後10時)には閉められ、夜間は原則通行禁止であったが、実際は両脇のくぐり戸から通行させたという。江戸開府後間もない元和2年(1616)に設けられた。四谷大木戸の碑は、玉川上水の石樋を利用している。すぐ隣に、玉川上水記念碑がある。


6 日本水準原点

明治24年(1891)5月、東京市千代田区千代田の日本橋から約1.5km離れたところをここに定めた。平均海面位置を出したが、関東大震災による平均海面位置の変動が懸念されたため、この建物の南側の石の水晶板の目の零線に刻まれている。建物は小さいが、風神殿建築様式をとった明治期の貴重な洋風建築である。

10 内藤新宿

甲州街道の最初の宿駅は高井戸であったが、日本橋から4里(約16キロ)もあり不便であった。元禄10年(1697)、浅草の名主高松嘉六らが幕府に上納金とともに太宗寺の南の内藤氏屋敷内に宿の設置を申請し、翌年に認められて始まったのが内藤新宿である。これでようやく江戸の四宿がそろふこととなった。日本橋から2里の距離、物流の拠点として今日まで続いている。

11 太宗寺



太宗という名の僧侶が慶長元年(1596)ころに建てたとされる浄土宗の寺で、内藤家の菩提寺でもある。「内藤新宿のお間魔さん」、「しょうづかのばあさん」として親しまれた間魔大王と奪衣婆の像や、「江戸六地藏」の3番目の銅像地藏菩薩坐像などがあり、江戸庶民の信仰を集めた。数入りには縁日も出て大いにぎわった。

7 四谷消防署 消防博物館



四谷三丁目角の四谷消防署の建物に併設されている博物館である。江戸時代から現代に至る消防の歩みを一堂に集め、昭和57年(1982)まで現役だった消防ヘリコプターや馬牽き蒸気ポンプ、江戸の火消したちのジオラマなどを実物や資料、映像で楽しめる。



甲州街道に続いて同11年に青梅街道は青梅を通して甲府まで流している。内藤新宿が誕生